

氏名	古城 昭一郎
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 4340 号
学位授与の日付	平成22年 6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Clinical Usefulness of a Prognostic Score in Histological Analysis of Renal Biopsy in Patients with Lupus Nephritis (ループス腎炎患者の腎組織における予後予測スコアの 臨床的有用性)
論文審査委員	教授 松川 昭博 教授 小出 典男 准教授 雑賀 隆史

#### 学位論文内容の要旨

ループス腎炎の腎病理用語の定義を標準化することと臨床と関連性の強い病変を浮き彫りにすることを目的として、2003年にISN/RPS分類が提案された。本分類と腎予後の関連を評価することと、定義された各組織所見と腎予後の関連に基づいた Prognostic score を作成することを目的として検討した。ループス腎炎症例 99 例を対象とし、観察期間中の 1.5 倍以上の Cr 増加をエンドポイントとして、腎予後と各組織所見の関連を後ろ向きに比較した。結果、class IV においては class IV-S より class IV-G が腎予後不良な傾向があったが、有意差は見られなかった。多変量解析による腎予後に対する活動性病変・慢性病変の検討では、独立した危険因子は壊死・糸球体硬化・繊維性半月体であった。また、抽出された危険因子をもとに作成した Prognostic score 高値群は低値群より有意に腎予後不良であった。ループス腎炎患者の腎予後予測において、Prognostic score は有用な可能性がある。

#### 論文審査結果の要旨

2003年に、International Society of Nephrology/Renal Pathology Society (ISN/PRS) により新分類が提案され、ループス腎炎の活動性病変・慢性化病変の明確な定義がなされたが、これらに関する妥当性の評価は十分になされていない。この研究では、ISN/RPS 分類を用いて組織標本を再評価し、活動性病変、慢性化病変をしめる面積の割合で組織所見をスコア化し、Class III, IV-S, IV-G の 3 群間を評価した。加えて、各組織所見と腎予後の関連に基づいた Prognostic score を作成することを検討した。腎生検自検例 99 例を対象として検討した結果、class IV-S と class IV-G に有意差はなく、各変量解析による腎予後に対する活動性病変・慢性病変の検討では、独立した危険因子は壊死・糸球体硬化・線維性半月体であることを示した。また、抽出した危険因子をもとに作成した Prognostic score 高値群は低値群より有意に腎予後不良であることを示した。今後、前向き検討が必要であるが、本研究はループス腎炎患者の腎予後を知る上で有用な可能性を示したものである。よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。